



鳥取こども学園 学園だより

第 57 号
2025年 6月 1日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>

題字 尾崎悌之助

新年度を迎えて

幼保連携型 認定こども園 鳥取みどり園

園長 西垣 恭子



園前が桜色に染まり、やわらかくやさしい日差しに包まれた4月5日、第76回入園式を挙行しました。当日は、新入園のお子様と昨年度途中に入園のお子様、そして多くのご家族や来賓の皆様に参加していただき、子どもたちの慶びの日を賑やかに祝うことができました。

入園式を終え、本園で集団生活の第一歩を踏み出した子どもたち。一番安心できる大好きな家庭から、全く知らない人たちがいる環境の中にある日突然置かれることへの不安と緊張は計り知れません。そのことを担任は心に留めながら、一人ひとりが何に興味があり、好きな遊びは何かなど、探っていくところから始めたいと思います。また、進級した子どもたちも、クラスの人数が増えたり、下足箱やおもちゃの置き場が変わったりし、一つ大きいクラスになったことの喜びと共に戸惑いもあると思います。担任の先生はいつも自分のことを見てくれるという安心できる環境の中で、一人ひとりの育ちをしっかりと支えていきたいと思っています。

基本理念をキリスト教の教えである「愛（一人ひとりを大切にすること）」とする本園の生活の中で、新しく入園してきた子どもたちは、園の先生や友達と共に祈る朝の礼拝に人生で初めて出会います。この礼拝の時間は園にとって最も大切な時間です。子どもたちは先生と一緒に月のこどもさんびか（四月は「小さいおてこ」、7月は「小さいおてこをくみあわせ」）としておのりいたしましたしゅうかみさまよいこにしてください。を歌い、月の聖句（聖句とは聖書の中の言葉で4月は「神は愛である」）を唱えます。そして最後にお祈りをします。子ども一人ひとりは、神様イエス様によっていのちを与えられたかけがえない存在です。神様はいつも私たちのそばにいてくださり私たちを愛して下さっています。神様

のお守りと祝福に感謝して祈りをささげ、礼拝から喜びと希望を与えられ、今日の一日をスタートさせます。礼拝で大切にしていることは、「あなたのいのちは大切なもの」「あなたはかけがえない存在」「周りの人を大切にしましょう」という神の愛を子どもたちに伝えることです。小さなかわいい手を組み合わせ、担任の先生と一緒に一生懸命お祈りをしている子どもたちの姿はとても愛おしく、光り輝いて見えます。これから先、子どもを取り巻く社会環境もめまぐるしく変化し、時には生きづらさを感じることもあることでしょう。本園の生活の中で伝えたい目には見えないものの価値観は心の指針となり励ましとなってくれるものと信じています。

今年度も、本園の恵まれた環境を存分に活かした生活を楽しむ中で、健康な心と身体を育みたいと思います。本園のキャッチフレーズは「春はさくら見、夏は蝉取り、秋はどんぐりを拾って、冬はダイナミックに雪遊び」です。

鳥取でも指折りの桜の名所となっている園前の桜を見ながら食べるおやつは最高です。夏になると葉の茂った学園内の多くの木々に蝉がやって来て、散歩途中子どもたちは蝉取りに夢中になります。秋になるとグラウンド周りにあるコナラやクヌギの木から落ちてくるどんぐりをスポンのポケット一杯に拾うこともうれしい日課となり、冬は辺り一面に雪の積もったグラウンドで雪の感触や冷たさを感じながら思いっきり遊びを楽しみます。このように、子どもたちは戸外で四季折々の自然と触れ合う遊びを通して、元気な体と豊かに感じる心を育てていきます。現在、子どもを取り巻く生活の場には、ネット環境が急速に進み、映像を通して見るものを知ることも多くなる中、子ども時代に本園の生活の場で本物の自然に触れ感動した原体験は、大きく

なっても心の糧となってくれることでしょう。

また、健康な身体づくりには、本園が自慢としてある芝生広のグラウンドと2つの園庭が大いに役立ちます。仲間とダイナミックにサッカーや追いかけっこをし、園庭の砂場でままごとや川つくりで夢中になって遊ぶ姿に、恵まれた環境に感謝する毎日です。乳幼児期の成長は3つのスキル【認知的スキル例/文字・数・思考(あたたま)】【社会情動的スキル例/好奇心・協調性・頑張る力(こころ)】【運動スキル例/体力・運動能力(からだ)】が相互に関連しもたらされていると考えられており、運動遊びが心の育ちや意欲の形成に繋がっており、運動遊びを支えていると考えられています。保育室で泣いていた子どもも戸外に出ると気分が晴れ泣き止んでくれます。春は子どもたちの緊張をほぐすためにも戸外で遊ぶ日を多く計画したいと思います。

最後となりますが、本園はこの地で歩ませていただき75年目となります。地域の中には、親子三代で本園に通ってくださっていた方も多く、園を大事に思ってくださいに感謝します。昨年度より始めたあいさつ運動や絵本の読み聞かせも、卒園された地域の方が協力してくださっています。また、令和5年にこども家庭庁が創設され、子どもをまんやかに社会全体で育ちを応援する取り組みが進んでいる現在、幼保連携型認定こども園は子育て支援が義務となっており、今年度は開所より30年目を迎えた地域の子育て支援拠点事業「わくわく支援センター」の取り組みをさらに拡充し、第4土曜日にも親子で利用していただけるようになっています。また、就労の有無に関わらず園が利用できる「こども誰でも通園制度」も導入するよう予定しています。

令和7年度も、創設者である藤野とり先生理事長の祖母が、園歌に込められた「あかるいひかりのみどりえん」「あかるいあいのみどりえん」であるよう、この園で出会えた子どもたちと共に歩めることに感謝し、一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様、園に携わってくださいます多くの皆様、今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

児童養護施設

鳥取いづも学園

「救す(ゆるす)」ことで
世界は平和になる」

鳥取こども学園園長(理事長)

藤野謙一

当法人では、毎週日曜日の午後7時から20分程度オンラインで夕拝をしています。子どもと職員は自由参加です。最初に賛美歌、主の祈り、聖書のみ言葉、お話し、お祈り、賛美歌で終わります。以下、2025年2月9日の聖書のみ言葉とお話しの箇所をそのまま紹介します。

〈マタイによる福音書18章21〜22節〉
そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

〈おはなし〉

(1) 感謝
みなさんの笑顔、まっすぐな心、苦しみなながらもがんばっている姿。

みなさんと学園にいっしょにいて、幸せです。感謝！

(2) 学園は、あたたかい雰囲気、アット

ホームな雰囲気、心のより所でありたい

一月にあった鳥取ライオンズ杯卓球大会。鳥取ライオンズの団体の中で、「あの大会は、とってもいい」という噂。参加したライオンズさんの一人は言う。「みんなにすめられて初めて参加した。あたたかい雰囲気、とてもアットホームで、こどもたちの笑顔が素敵で、職員さんたちも素敵。なんともいえない心地よさがある。参加したメンバーがすすめる意味がわかった」

(3) 自立援助ホーム鳥取フレンド40周年、スマイル20周年

「普通の生活」をすすす大切さを語る
山中さん

(4) 「普通の生活」から外れたことが起こるのは、学園の「日常」。「ゆるす」ことが大切

① まちがったことをしない人間はいない。人間はいつも、だれかにゆるされて生きている

② しかし、いまの世の中は「ゆるさない」という懐の狭い社会

③ 学園は、「ゆるしあう」ところで
懐深くありたい

「愛」とは「じぶんをだいにこいつへ、ほかのひとをだいにこいつへ」

「おたがいをゆるす」こと
人間がお互いに赦し合えば世界は平和になる

新任職員の自己紹介

◆かづらぎの家



保育士

萩原 魁

今年度より当園で働くことになりました萩原です。わからないことも多く大変お世話になると思いますが、一日も早く仕事を覚えられるように努力をしていきますので宜しくお願い致します。また、保育士として、子どもが成長していくために欠かせない悩みにも同苦し、一緒に乗り越えていくということを大切に行きます。

◆あかりホーム



保育士

依本 杏菜

4月からあかりホームの職員として入りました。
まだ解らない事が多く、御迷惑をおかけすると思いますが、「小さなことからコツコツと」をモットーに楽しく笑顔を大切に頑張っていきます。
よろしくお願いたします。

児童心理治療施設

鳥取いづも学園希望館

理念と実践の在り方

館長 水野壮一

先日テレビの医療ドラマを流し見していたら指導外科医が研修医とこんな会話を交わすシーンがありました。

指導医は主人公である研修医にこう問いかけます。「医者には4種類ある。性格の良い医者悪い医者、技術のある医者となない医者。この組み合わせで最悪なのは？」主人公は「性格が悪くて技術のない医者です」と答えますが、指導医はこれをきっぱりと否定して「最悪なのは性格が良くて技術のない医者だ。多くの患者から期待され信頼されるだけに質(たち)が悪い」と。だから私は懸命に技術を磨き、性格が良くて技術のある医者を目指し続ける…」と、性格が良く患者さんに親身になり懸命な主人公の研修医に諭します。なるほど、深いセリフだなと思いました。

何でも希望館に置き換えて夢想する悪癖を持つ私は「性格」を「希望館の理念」そして「技術」を「希望館の実践」と置き換えて考えてみました。2000年前に主イエスの教えがあり、「愛は絶える



昨年みんなで植えた花がきれいに咲きました

「ことがない」と20年前に創立された法人において、理不尽な悲しみや生きづらさを抱える人たちの尊厳を守り、自分も周りの人も大切にできる人へと、子どもと大人が共に成長するという希望館の理念は（施設長自ら言うのもなんですが）とても尊いと思います。この先何十年たっても「希望館の理念」は変わらないでしょう。子どもたちもその理念をよく理解してくれて、日々本当によく頑張ってくれています。

「一方で「希望館の実践」はどうか?と考えた時、「何事も話し合いで解決する」ことをベースにして、寄り添い分かり合えていくか?良い機会を逃すことなく自立と成長へと導いているか?子どもたちの寛大さや頑張りに甘えて自らの働きを怠るなど子どもを軽んじていないか?高い専門性による適切な治療的支援ができていくか?などなど自問自答を繰り返しました。みんな日々努力を続けてはいますがそれでも「理念は良いけど実践はまだだ」と思い、更に「実践に完成・ゴールはない」という考えに至ります。理念を基とし実践を磨き続けることが大切なのだ。(川口ドクターが「医療は日進月歩」と熱心に学ぶ姿にも教えられた)



遅咲きのチューリップも見事開花!

冒頭の「性格が良くて技術のない医者」と同様に「理念は尊いが実践が伴わない児心施設」も罪深い。だから良い実

践を達成していけるように努力を重ね、「理念も実践も良い希望館」を目指し続けたいと考えます。



保育士

谷

明佳音

◆ごぼとホーム

今年度からお世話になっていきます。子どもと会話や遊びを通して沢山の思い出を作っていきたいと思っています。日々、元氣よく精一杯頑張りますのでよろしく願います。



保育士

山

田 美月

◆希望館 さつきチーム

新任職員のご紹介

実践を達成していけるように努力を重ね、「理念も実践も良い希望館」を目指し続けたいと考えます。



乳児部と桜

初めに、この文章は全国乳児福祉協議会が発行している機関紙「乳児保育」のリレー随想として寄稿したものを「学園だより」用に手直ししたものである為、どこかで見た文章だと思われる関係者もいらっしやるかもしれませんが先にお断りしておきます。

副院長 渡

美由紀

乳児院の多機能化と
現実と未来

乳児院

鳥取子ども学園乳児部



Aくん作の行燈

私が就職した頃の社会福祉法人鳥取子ども学園は、児童養護施設と保育園を運営するごんまりとした法人でありました。あれから30年あまり経ちますが、あれよあれよという間に多種多様な施設や事業所が増え、今では職員230名を抱える法人となっています。これは、前理事長の故藤野興一の尽力によるものです。現に私も児童養護施設に入職し、児童心理治療施設(当時は情緒障害児短期治療施設)、一時保護所を経て乳児部に在職中です。

そんな法人の歩みの一つとして創立100周年に鳥取子ども学園乳児部は創設され、現在創立18年を迎えたところです。定員15名、小規模グループケア3

ホーム、一時期は短期預かり専用ホームを設けた時期もありました。一昨年度まではショートステイなどの受け入れがままならない状態が続いておりました。ところがどうでしょう、昨年度は新規入所が1名のみ。前代未聞のことに戸惑うばかりです。そして、年度末に措置変更で退所したことも多数。昨年度の後半は次年度の体制に頭を悩ませておりました。

そうは言っても悩んではかりはられません。時間はいつも通り流れて新年度はやってくるのです。今年度の乳児部は、定員15名(暫定定員14名)、小規模グループケア1ホーム(1ホームは休止)入所児童5名でのスタートとなりました。入所児童が増えた際の人員はスキルアップ及び乳児部の明るい未来の為に法人内の他施設へ研修に送り出しています。また、学園だより第45号(2019年6月発行)「大きくなったかな? さくらんぼ」でご紹介した短期預かり専門の「ごくらんぼ」は地域支援を統合するべく子ども家庭支援センター「希望館」の一員となり、何にでもオールマイティに対応できる「はちみつ」に進化を遂げました。

乳児院の多機能化、高機能化が叫ばれている昨今、児童の入所が見込まないのであれば多機能化を考えなければ...と考えるのですが、うちの法人自体が既に多機能化を遂げていました。先述



散歩で花見

したように様々な施設や事業所の中に、地域子育て支援センター、児童家庭支援センター、里親支援センターも既にあるのです。そうなるに我が施設を多機能化するのではなく、法人内にあるものを最大限に活かせるようお互いを知り、共に地域支援を担っていくために乳児院の専門性を活かせる道を模索したいと思えます。乳児部をよく知る職員が様々な所で専門性を発揮し、一緒に歩めることほど心強いことはありません。こんな困難な時でもやはり明るい未来を語りたいたいです。

そこで、乳児院として何ができるか検討した結果、まずは次の2点に取り組むことになりました。

- ① 子育て世帯訪問支援事業の受託
これを受託することにより、退所児童のみならず委託一時保護や子育て短期支援事業などで繋がった子どもたちやその保護者が地域で生活していく上で悩みを抱え込んだり孤立したりしないよう寄り添い、関係機関と連動しながらアフターケアを充実させていくことができます。一期一会を大事にしたいと思えます。
- ② 鳥取市の産後サロン「ひだまりサロン」への職員派遣

生後6カ月までの乳児とその保護者との関わりの中で乳児院職員としての専門性を活かしながら鳥取子ども学園乳児部を知っていただくきっかけとし、当法人が持つ様々な機能へのハードルが少しでも下がれば良いと考えます。

これらの取り組みを行うことにより、地域のニーズをキャッチし、今後の乳児院の明るい未来を私たちこそわくわくしながら検討していきたいと思えます。困ったこともたちの居場所、巣立った子どもたちのルーツを語る場所をなくすわけにはいきません。このピンチをチャンスと捉え、職員一同一丸となって取り組みたいと思います。鳥取子ども学園乳児部に来て良かった、繋がってよかったと子どもたちや保護者の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様にも思っていただけのことから努めてまいります。

認定こども園

鳥取みどり園

初 心

主任保育教諭 中野 雅 洋

園前の桜が見事に咲き誇る4月。31名の入園児を迎えて入園式を行い、143名で令和7年度がスタートしました。

3月には31名の年長児を送り出し、寂しさを感じていたところですが、別れがあれば出会いもあり、新入園児を迎えて毎日にぎやかに生活しています。

この春卒園した子どもたちは今頃新たな環境や生活の中で、みどり園での思い出を胸に、勉強や友達作りで充実した毎日を送っているのかなと思いを馳せるところです。

これまで多くの子どもたちを小学校へと送り出してきましたが、その中から13年前に卒園した1人の女の子がいま。その子は在園していた当時、園が大好きで毎日元気に登園し、保育教諭や友達と一緒に様々な経験をjして成長してjきました。

時を経て高校3年時、「保育教諭になりたい!」「みどり園で働きたい!」という思いで大学に進学し、現在も保育教諭資格取得に向けて研鑽を重ねていると

ころです。

卒園してから13年以上もの間、みどり園のことをずっと大好きでいつづけてくれていることに嬉しさを超えた感動と、感慨深いものを感じます。そして現在もいとこの送迎で時々顔を見せてくれるその子が「先生ー!」と声を掛けてくれる手を振ってくれることに、法人の理念でもある「愛」をしつかりと受け取ってくれたのかなと感じ、誇りに思います。

私事ですが、元々子どもが大好きで、中学生の時の職場体験で保育園に行く機会を得て、「保育園の先生になる!」と決意しました。しかし、25年前に実際に保育に携わるようになって思い知ったのは、「保育教諭は子どもが好きなだけでは動まらない」ということです。ただ、「子どもが好きでなければ絶対にできない」仕事でもあると思います。

我々保育教諭は「子どもが大好き」という一番の基礎であり初心を忘れることなく、子どもたちが「みどり園楽しい!」「みどり園に行きたい!」とたくさん笑顔を見せてくれるよう、そしてたくさん幸せを感じてくれるよう目一杯の愛情を注いでいきたいと思jいます。

新任職員自己紹介



横田 奈々

4月から一歳児りす組の担任になりました。子どもたちにとって、鳥取みどり園が安心できる場所となるよう、笑顔で丁寧に関わっていききたいと思jいます。これからどうぞよろしくお願jいたします。



長谷阪 美香

毎日、元氣いっぱいの子どもたちにパワーをもらい、楽しく過ごしています。日々新しい発見や成長を見せてくれる子どもたちです。私も負けずに日々成長できるよう、頑張りたjと思jいます。



自立援助ホーム

鳥取フレンド

鳥取スマイル

はればれ

鳥取フレンド開設40年、
鳥取(倉吉)スマイル開設
20年に思ふこと

統括寮長 田村 崇

2025年1月18日の夕刻、海岸近くのレストランで鳥取フレンド開設40年、鳥取(倉吉)スマイル開設20年を記念し祝j食事を開催しました。本来ならばフレンド、スマイルに関わるすべての皆様にお声掛けして盛大なものにするべきだったのですが、わたしの力が至りませんでした。ごめんなさい。OB・OG含め約50名の関係者が集い、これまでの思い出を語り合いました。また、たくさん思jいの言葉もいただきました。いただいた一つひとつのお言葉をここでは紹介できませんが、そこには皆さんの温かい思jいが詰められています。

鳥取フレンドは、命の尊さを重んじ、人と人との繋がり、しがらみをつくり、助け合って生きていこうという思jいで始まりました。藤野興一さんの熱き思jいに共感され、フレンドを支えてくださった

山中夫妻(捷二さん、友子さん)からはじまり、その後多くの方々によって支えられてきました。20年の月日を経て、倉吉(鳥取)スマイルが開設されました。縁あって出会う若者たちの笑顔を創りたい、大切にしたいという思いで始まりました。そして現在では3つ目の自立援助ホームははれが、激しく変化する世の中で迷う若者を一人でも多く支えていきたいという思いで開設されています。

40年前から変わり続けるものがあるには在ります。それは『情熱』です。それは一人ひとりを大切にしようという思いです。時は流れていけども、世の中が激しく変化していることも、人間一人ひとりには尊厳があります。それはお互い認める、ゆるす、受け入れるということだと思います。この世の中には全く何をどうも『同じ』人というのは存在しないのです。だからこそ生じる難しさがたくさんあります。それでもわたしは手を取り合ってきていきたい。それでもわたしは縁あって出会う一人ひとりの笑顔を創りたい。そう思っています。

食事会の最後に、ひとりのOBから壇上で花束をいただきました。会を締めくくる演出ではあったのですが、彼は言葉に詰まりながら大泣きしました。もちろんわたしも涙がこぼれ落ちました。正直わたしは、今でも何もできていないと思っています。それでも彼はこんなに感謝してくれていたのです。こちらこそ本

当に感謝です。そしてこの心のこもった花束は、藤野興一さんと山中捷二さんに贈られるべき花束だったんだと深く感じました。

日頃より自立援助ホーム(3ホーム)の毎日の生活を支えてくださり誠にありがとうございました。これからも大切な思いを忘れずに若者たちと生活をともにしてまいります。これからも優しく温かい眼差しで見守ってくださいませよう、よろしく願いいたします。

児童家庭支援センター
子ども家庭支援センター
「希望館」

新しいチャレンジ

所長 遠藤 信彦

鳥取子ども学園は19年間、一日も休むことなく続いています。明治39年の日露戦争終了時、鳥取市民は戦勝に浮かれていましたが、多くのお父さんが鳥取市国府町の歩兵第40連隊基地から出兵して亡くなり、立ち行かなくなった家の子ども達が街中にあふれていました。これをどうにかしないといけないと、現在も鳥取県庁前、敬愛高校の横にある小さなキリスト教会に集う信者達が、お金を出

し合って建てた孤児院がスタートです。

それ以降昭和へ平成と、時代の要請に応じてさまざまな事業を始めてきました。長期間子どもをあずかり育てる児童養護施設・乳児院のみならず、地域の子育てを支える取り組みを多く展開しています。豊かな自然に囲まれた広い芝生グラウンドと、キリスト教保育・教育が持ち味の認定こども園『鳥取みどり園』や、親子が気軽に立ち寄り交流や相談ができる地域子育て支援センター『わくわく』、里親家庭をサポートする『いろは』などなど。そして、子育てに関するさまざまな相談に応じる、私達、『子ども家庭支援センター』『希望館』があります。

この令和の7年、鳥取子ども学園はまた新たなチャレンジをします。これまで児童養護施設の一部門であった一時養育ホームを、児童家庭支援センターの一部として運営していきます。一時養育ホームは、児童相談所から委託される子ども(シヨートステイ・トワイライトステイ等)のあずかりを担います。子育て短期支援事業は、親御さんの病気や冠婚葬祭など、急なことで子育てがいつとき難しいとき、子どもを預けたり、親子で休んだりすることができるサービスです。児童家庭支援センターが持つ相談支援の機能に、一時あずかりの機能が統合されることで、例えばシヨートステイ

を長年利用されているご家庭の相談にのったり、相談を受けた親御さんにトワイライトステイを提案したり、といったことが、よりスムーズにすすめられます。

鳥取子ども学園は創設以来、制度が無いところから実践を重ね、制度を作ってきました。より良い子ども家庭の福祉を追求し、働きかけ、形を変えていく運動体です。今年度、子ども家庭支援センター『希望館』はその最先端をあゆみまします。精一杯頑張りましますので、なにとぞもり立ててくださいませようお願いします。子育てでお困りのこと等があればご相談ください。センター外来相談の詳細は左記のとおりです。

※子育てや家庭についての悩みなど、子どもに関する相談に応じます。相談料は無料です。

○来所相談

開所時間 平日/月曜日～金曜日
朝8時30分～夕方5時30分
専門の相談員が応じます。

○電話相談

平日/月曜日～金曜日
朝8時30分～夜0時
(緊急の場合は時間外も24時間対応)

※子育て短期支援事業(シヨートステイ・トワイライトステイ等)は、市町

村が窓口です。お住まいの市町村の担当課にお申し込みください。

新任職員のご紹介

◆はちみつホーム



保育士

川崎 朱 桃

今年度よりはちみつホームでお世話になります。

初めての環境で慣れないこともありすが、子どもと過ごす中で子どもたちが安心して過ごせるような関わりをして頑張っています。よろしくお願ひします。

里親支援センター
里親家庭サポートセンター

いろは

思いを言葉にすること

センター長 清水 暁 子

私の大学・大学院の恩師は、クリティカル・ソーシャルワークの研究者であり、ソーシャルワーカーを養成する過程でその理論を取り入れた実践者でもあります。大学3年生から所属したゼミで

は、社会福祉実践現場のリアルな事例に触れ、「わたし」ではなく「ソーシャルワーカー」として、目の前にある課題を解決するための方法を仲間と考え、ロールプレイで表現をしてみても、「なぜそう考えたのか」と思いを言葉にして伝えました。この経験から、ソーシャルワーカーとしてのいろはを学びました。今こうして、里親支援の現場の最前線で、子どもや里親、いろはの職員チーム、皆さんの関係機関とかかわる際に出てくる私の言葉や行動は、まさにこの学びから導かれたものだと思っています。

昨年11月、フォスタリング業務実務者研修を開催し、「里親不調を防ぐ〜フォスタリング業務で求められる里親養育援助技術〜」と題して、二葉・子どもと里親サポートステーションの長田淳子さんにご講義いただきました。長田さんは、里親による子どもの養育を里親や行政まかせにせず、社会的養護の職員として、里親支援に主体的にかかわる意義を体現された方です。講義では、里親の開拓から研修、子どもと里親の関係成長への支援、自立支援、措置解除後の支援といった「フォスタリング業務」が包括的に行われることの重要性を改めて学んだと同時に、その過程を支援するソーシャルワーカーに求められる力について、多くの気づきを得ました。特に、難しい課題に直面した時に、「専門職だからこそ感じるものを言語化すること」というメッ

セージは、支援過程をクリティカルに捉えて、それを言語化し、慣例や経験にたよらない課題解決を対話によって目指すチーム養育のヒントとなるようで、心に響きました。

いろはは2年目の春を迎えました。私の思考の癖にもなってしまうている「なぜこうなったのかな」「他にいい方法はない?」という問題提起が、時にチームを混乱させてしまうこともしばしばです。しかし、チームの中で生まれる皆さんのクリティカルな発想は、よりよい子どもと里親への支援につながる一歩だと信じて、これからもたくさん言葉にしていきたいと思っています。

里親家庭サポートセンターいろはは、鳥取県に設置された里親支援センターです。HPをはじめ、SNSでの情報発信を行っています。お気軽にお問い合わせください。



啓発グッズの新作できました



いろはHP・SNS

就労継続支援B型作業所

はまむら作業所

大事なことを続ける

管理者 山岡 宏 樹

はまむら作業所は、この4月に無事14回目の春をむかえる事ができました。昨年度末には、開設時より長く事業所を支えてくれたスタッフや仲間との別れがありました。出会いがあれば、別れもあります。別れは辛いですが、出会えたことを大切にしながら、次に進んでいくしかありません。今年度も新たなスタッフを迎え、活動をスタートしています。今日も元気に利用者さん、スタッフ、法人関係者、地域の方々と力を合わせて日々の活動をぼちぼち行っているところです。こうして、学園だより作成の時期になると、ふと我に返る時間となり、はまむら作業所が日々多くの方々の絶え間ない「愛」に支えられていると痛感させられ、感謝の気持ちでいっぱいになります。本当にいつもはまむら作業所を応援いただき、ありがとうございます。

10年以上月日が経過しますが、開設時よりスタッフや関係者の皆さんと一緒にやっている、利用者さんと「一緒に思ったり、考えたりする」「一緒に活動する



外作業に行く途中、みんなでほっこり季節を感じる桜です

(作業や日中活動を共にする)「一緒に食事をとる」「同じ時間を過ごす」という事を継続することがすごく大切だと気付かされます。この時間が利用者さんの居心地のよさであったり、自分が大事にされているという自己肯定感へのプラスの影響が及ぼされたりするのだと、日々の関わりの様子や利用者さんの変化を通して私自身学ばせてもらっています。この「ともに」の精神なくしての作業や支援は、意味が薄れてしまつて思っています。新たな季節ですから、初心を忘れないように、また、事業所開設に至った当初のいろんな方の思いや学びも振り返りながら、一人ひとりしっかりと向き合っていきます。そして、話したり、活動したり、相談ごとを聞いたりして、利用者さんにとっても、関わる皆さんにとっても居心地の良い事業所、楽しく感じられる事業所にしていきたく思います。今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。

生活支援員

大前 裕美

4月より、はまむら作業所に配属になりました。職員のチームワークがよく、何事も楽しみ面白がつて取り組むことを大切にしている作業所なので、毎日ワクワクしています。職員と利用者の皆さんと力を合わせ楽しみながら一緒に成長できるように努力していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



キクラゲの真ん中に♡を見つけた



診療所

子どもの発達クリニック

紡ぎゆく縦の糸

マドンナ尾崎倅子

理事に感謝

精神科医 川口 孝一

今年の春は例年よりたくさん桜を観たような気がします。桜は春を呼ぶ使者の様な花ですが、同時に別れの象徴の花の様にも感じます。法人人事に関連して、この春大きな別れがありました。66歳の若さで他界された尾崎良一理事長の志を継がれ、平成14年4月より理事長に就任され、平成29年6月まで勤められた後、今年春まで理事として法人の活動を牽引されてきた尾崎倅子氏が理事を退任されることとなったのです。平成29年の学園だより倅子氏の事を書かせていただいたので、先ずはそれから抜粋再掲させていただきます。

トントン(学園だより)第28号より)

尾崎倅子理事長(以下、親しみを込めて「倅子さん」と呼ばせて頂きます)が退任し理事となり、(一中略)興一さんは、児童福祉の天才的申し子だと思ひますが、倅子さんが理事長だったから、思う存分仕事が出来たのだと思ひます。

私も倅子さんにすいぶん救われました。倅子さんの武器(?)は、純情可憐な少女の様な笑顔です。会議が嫌な雰囲気になっても(私が言いたい放題爆弾発言しても)、倅子さんの笑顔でその場の嫌な雰囲気も不思議な事に一掃されるのです。(一中略)他にも他の真面目な行事の中で私の場を弁えないジョークにも笑って下さいました。倅子さんが倒れられて入院された事がありましたがお見舞いに行った時もノーマイクなのにいつもと少しも変わらない少女の笑顔で迎えて下さり、お見舞いに行った私の方が癒されて帰った事を今でも憶えています。つわもの揃いの学園執行部の中での理事長の責務、本当に大変だったと思ひます。お疲れ様でした。無礼な私はまだお礼を申し上げていなかったため、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

トントン

学園の歴史の中で「マドンナ」と言われる方は何人が居られたと思ひますが、私にとつての学園のマドンナは尾崎倅子氏です。会議や個人的な会話においても多くは語られませんが、そこに儀礼や建前は無く、優しさ、温かさ、尊敬、信念があり、虚飾、偽りのない笑顔同様にお言葉にも幾度となく救われ、励まされました。体調を崩されて休まれていた倅子氏が今年3月理事会に久しぶりに出席されました。少し早く桜の花が咲いたように私はもちろんですが理事会の雰囲気

明るく暖かくなりました。その日の理事会は少し早く終わったので、倅子氏をご自宅にお送りさせていただきたくて、かなり強引にお願いしてお送りさせていただきました。ご自宅の前でご挨拶をして車を出したのですが、ルームミラーを覗くと倅子氏がずっとご自宅の前に立って見送っておられるではありませんか。私にご自宅から100m先の信号を左折するのですが（こういう時に限ってなかなか青に変わってくれません）、病み上がりのまだ十分ではないお身体の状態です。私が見送っているお姿に申し訳なさがありがたさを感じました。おそらく倅子氏は私に気が付いているかいないか等関係なくそうされていたのだらうと思います。その様に人を大切に想う倅子氏のお人柄に改めて感動いたしましたし、私自身も少しでもそこに近付けるように自身を磨き、手を伸ばし続けなければならないと想いました。尾崎倅子理事、本当に長い間ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願い致します。



鳥取養育研究所

学園のルーツを学ぶ会

所員 鷲見 智明

今は2025年4月5日。学園前は春満開です。そこに人々の笑顔が溢れており、地区の方々が声を掛け合いながら発電機を夜遅くまで調整しておられる姿も目にします。ライトアップされた校の透き通る淡い色は、携わってこられた人々の思いと共に輝きを放っています。まさに今この瞬間を、過去を引き連れて共にここにいらっしゃるんだよということ伝えてくれているように思えます。

この桜並木は、今から74年前の1951年鳥取みどり園創立の年、鳥取子ども学園の子どもたちが大人と一緒に巻き尺で印をつけながら植えたものです。当初は牛やヤギに葉っぱを食べられてしまいました。「食料不足で困っていた」時代、社会から不遇な扱いを受けていた時代の中で、「ここが桜並木で花見にきてくれれば、世間にも学園やこの子たちのことを知ってもらえる」、当時の園長藤野武夫さんのそんな思いがあったのだらうと、実際に苗木を植えられた方

がインタビューの中で語られておられました。

2008年から始まった学園資料整理を経て、『研究者と現場職員が一緒になって学び、研究者のためにではなく、実践者のための歴史勉強会』として2016年学園のルーツを学ぶ会は立ち上げられました。現在は、上述にあるインタビューなども実施しながら、戦後・占領期の時代を学んでいます。同じ出来事であっても、ある人の体験と、またある人



の体験は一致しないかもしれませんが。しかし、どれも事実なのだと思えます。即ち歴史とはどのような立場・視点をとるか一つで大きく歪曲します。それ故に扱うに当たり怖さもありません。でも、だからこそ楽しいのかもしれない。

昨年度末から、新たに学園職員3名も加わって残存資料や写真を見返ししながら学びを進めています。書籍「愛は絶えることがない 鳥取子ども学園九十年史」も読み込みながら、自主的に公文書館に出向いて資料を探したり、図書館では過去の新聞記事を調べたりもしてきています。そして、昭和天皇行幸、一時保護所の間借り、鳥取子ども学園と改称、鳥取みどり園創立、鳥取大火、ララ物資といった項目でまとめ、創り上げられた発表は、紙芝居のようにその当時を体験することができました。その発表を子どもたちにも伝えてみると、現在の生活と比べながら質問がどんどん出てきては、「あの桜は74歳で、ヤギから生き抜いたんだ」「食べ物がなかったから大変」「子どもが多い」「寝るところやお風呂が窮屈」「ストレスが溜まりそう」「戦争はダメ」「死ぬ不安しかない」「とても大変だったと思う」という感想が聞かれました。日々の何気ない光景や生活も、その物語を知ることで見え方や距離感が違って見えてくるようです。理解し合おうとする人と人との関係にも近いなあと思ひながらその光景を眺めます。子どもたちにも大

人にも、今ここで一緒に同じ方向を向いて生きてくれているということだけで感謝を感じました。私たちみんなの居場所である鳥取子ども学園の歴史は私たち自身で創り上げていくべきだと想いを新たに、来年に控える創立120周年に向けても何かしら形にしていきたいと思えます。何よりも子どもたちと共に。桜が綺麗ですね。

事業所内保育施設

うのひまわり

どんな色が好き?

チーム長 中村 秀子

「どんな色が好き?」と聞かれて思い描くのは何色ですか?「赤」「青」「黄色」「緑」…。子ども達が大好きなこの歌を歌うと順に先の色を答えてくれます。そして繰り返し歌っていくと概ねその子の好きな色がわかってきます。Aくんは赤が好き。散歩中に会った車や信号機の色が変わる度に「あか!」と教えてくれます。また、Bちゃんはトイレに行くたびに必ずピンク色のスリッパを履きたがります。「青の(スリッパ)でもいいよ」と声をかけてもピンクのスリッパを探して履いています。こんな時、「スリッパ



かたつむり み〜つけた♪

なんてどれでもいいのに…。」と内心では思っていますがBちゃんにとっては必須アイテム!お気に入りのそのスリッパを履いてトイレにむかっています

大好きな色やお気に入りの物があるだけで前向きな気持ちや充足感で満たされまた、向上心や行動意欲につながっていく効果があるようです。我々大人もそれぞれに好みの色や物を選んで身につけた生活の中に取り入れることで自分だけの安心で快適な空間を作り出しています。時には流行している色やアイテムを取り入れたり気分転換と称して違う色や柄を選んだり、配置換えをする等して新たな自己発見や活力を見い出す事もあるでしょう。そう思うと「色」の持つ意味や効果って不思議ですね☆



よ〜いどん!!

さて、とりっこのげんキッズは現在5名
それぞれ好きな色や興味のある物は違います。それらを含めて私達保育士は子ども一人一人の「個性」と捉えて大切にしています。小集団の中で時には同じ玩具を取り合ったり、「ぼくが…」「私が…」と自己主張を通そうとする場面も見られますが、園生活を共に過ごす中で「いっしょに♪」「むっぞ♥」と気持ちを寄せ合う場面も見られるようになってきました。散歩に出かけて見つけた花や小動物、季節ごとに変わっていく風景、雨風、雪等の自然現象の不思議さに触れながら豊かな感性と心を育てていきたいと思えます。そして、「赤いいな」「青もいい」「合



保育士

森原 万理子

新任職員のご自己紹介

わせると紫になった!」とお互いの良さや新たな発見を喜び、子ども達の心に素敵な色を重ねていきたいと思えます。

今年度より、とりっこのらんどでお世話になります。
これまでの経験を活かしつつ、子どもたちに寄り添いながらも楽しく過ごしていきたいと思えます。よろしくお願います。

当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、下記のとおりです。
心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (R 6.11.10 ~ R 7. 4.21)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
相見寿子	金森千恵子	毛塚裕之	田中当子
浅野和子	株式会社コタニ	高力房枝	田中昶
安達裕見子	代表取締役 小谷 憲司	郡 ひろ子	谷 〇 秀
阿部正昭	株式会社 タブチ	国際ソロプチミスト鳥取	谷 〇 勝也
荒尾雄二	代表取締役 田淵 宏一	会長 井上 恭子	谷 〇 香与子
幾野裕昭	株式会社 保健企画 ひまわり薬局	小 島 龍 雄	谷 〇 尚子
池上聡一	株式会社 アベ鳥取堂	小竹原 寛	タニグチ・ヘア・サロン
池田牧	代表取締役 阿部 正昭	小羊チャイルドセンター 小羊教会	谷 〇 義 明
池本夏樹	株式会社 ウィードメディカル	代表 市川 益子	谷 島 伸 二
石川俊浩	代表取締役 林 誠	近 藤 明 紀	田 淵 陽 子
石田信夫	株式会社三協レンタル	齋 木 一 紀	田 村 明 子
いしど歯科クリニック	株式会社 ニシオ	齋 藤 禎 一	田 村 明 長
井須尚紀	株式会社 葡萄家	齊 藤 光 實	田 村 利 江
一心館	代表取締役 山根 一利	斎 藤 泰 暢	田 村 美 好
伊藤文代	株式会社 丸 十	栄 枝 明 典	廳 和 子
井上康夫	株式会社 ミナミコーポレーション	酒 巻 佐 代 子	常 井 幹 生
入江順子	代表取締役 岡本 安量	佐 野 信 三	常 田 享 詳
医療法人きむら耳鼻咽喉科医院	株式会社 ヤマネ 機材	澤 義 幸	テモミジョーズ
木村 寛	代表取締役 山根 克仁	山陰冷暖設備株式会社	藤 内 正 樹
医療法人たなか小児科医院	株式会社 トリベイ	柴 田 和 仁	戸 田 雅 之
岩田美代子	株式会社 信勝丸 漁業	清 水 雅 彦	鳥取医療器株式会社
上嶋純子	代表取締役 山岡 寛人	正 林 督 章	鳥取鶏卵販売株式会社
植田公平	株式会社 本間設計事務所	白 井 道 子	代表取締役 長田 淳
宇佐美幸子	亀 本 良 一	新 矢 檜 夫	鳥取県労働者福祉協議会東部支部
江谷孝明	川 〇 明 子	末 益 裕 香	支 部 長 下 田 誠
海老原光瑳子	川 〇 孝 一	寿 司 江 戸 吉	鳥取更生保護女性会
大 駅 庵	河 〇 欣 微 子	鈴 木 洋 平	鳥 取 市 仏 教 会
岡本秀人	川 戸 淳 裕	高 瀬 海 二	鳥 取 友 の 会
大島義典	岸 田 洋 子	高 田 博 文	鳥取東更生保護女性会
大谷恭一	北 尾 嬌 子	高 橋 伊 佐 夫	会 長 芝 岡 み どり
大塚福子	北 村 真 里 菜	高 橋 会 計 事 務 所	鳥 取 み どり 園 保 護 者
大月和真	北 室 育 子	高 橋 岑 俊	鳥 取 南 更 生 保 護 女 性 会
岡本智鶴子	木 下 尚 則	タグチレディースクリニック	会 長 岸 本 美 鈴
尾崎歯科クリニック	キノシタ ナオトシ	田 〇 俊 章	鳥 取 ラ イ オ ン ズ ク ラ ブ
尾崎信一郎	木 村 悦 子	竹 本 芳 宏	会 長 西 尾 慎 一
尾崎美幸子	木 村 肇	武 安 泰 雄	富 山 佳 代 子
尾崎俣子	木 本 裕 治	唯 聡 太 子	鳥 山 玲 子
貝谷やへ子	草 野 雅 昭	田 中 和 子	中 尾 文 裕 一
加藤和徳	敬愛興産 有限 会社	田 中 嘉 鶴 子	中 嶋 哲 一
加藤由紀	代表取締役 西山 裕子	田 中 修	中 島 陽 一

氏名	氏名	氏名	氏名
長谷賢二	林真弘	松岡義人、朋子	有限会社 家電のきのした
中野教代	はやし社会保険労務士事務所	眞鍋裕亮	代表取締役 木下 通徳
中村健二	林義雄	圓山巖	有限会社 岸田ガラス店
中本久美子	原雅子	三木康二	代表取締役 宮本 彰彦
仁保統博	原井たき代	三国山の風の館	有限会社 スバル保険
日海通信工業株式会社	原田潤哉	西上洋治	代表取締役 松永 隆夫
日本基督教団 倉吉上井教会	パルス電工有限会社	水野浩伸	有限会社 造園土木植清園
日本基督教団 鳥取教会	半田卓実	光田澄子	大塚 清 隆
日本基督教団 鳥取教会シオン会	広谷笑子	宮田芳夫	有限会社 鳥取システムサービス
日本基督教団 鳥取新生教会	福寿みどり	茗荷 京	有限会社 錦運送
日本基督教団 米子教会	藤井喜臣	務中 早紀子	代表取締役 山下 教幸
貫名安子	藤井重明	無名氏	横山 房子
野崎紳一郎	藤井秀樹	村上悦子	吉田 由美子
信原修、朝子	藤原栄治	村上収	吉野 朱実
野村卓	藤原毅芳	邨上啓子	米山 康枝
橋詰隼人、一枝	古川潤一	村山嘉次	リセット 溝口 智子
畑山博史	堀いづみ	安本良栄	若川 重信
八村輝夫	ほんものショップ モリケン	山口ひろみ	若桜柿坂 医院
花木こどもクリニック	前住次寿	山田悦子	柿坂 紀武
花木正史	前田俊和	山中友子	渡壁 節子
濱田久美	前田洋子	山根青果株式会社	渡邊 健次子
濱本五十鈴	前田医院	山本智丈	田畑 幸子
濱本英機	前田宏	有限会社 ウコン自動車	
濱本義則	巻田豊	代表取締役 右近 謙治	

物品寄付者 (R 6.11.9 (11.4) ~ R 7. 4.11)

敬称略

氏名	氏名	氏名	氏名
M e i s t e r	株式会社 徳田商店	竹中工務店安全衛生協働会	福田 養 蜂 場
代表 白田 仁	株式会社 ヤマネ機材	谷 口 隆 之	袋川をはぐくむ会
U F O 秋里店	倉元 麻美	土井 倫子	松下 暢子
U F O 扇町店	黒川 竜次(代表)	鳥取鶏卵販売株式会社	圓山 巖
U F O 叶店	総合建設 T K R	鳥取県中小企業団体中央会	美 染
U F O 吉方店	株式会社クロカワ	鳥取更生保護女性会	峰 早 希
浅井 富美子	セブンイレブン鳥取雲山店	鳥取市立修立小学校	宮本 和 武
荒木 智幸	株式会社ぎしき	鳥取市立宮ノ下小学校	務中 早紀子
飯山 かずみ	E & S	中村 敦 司	無名氏
石田 信夫	創 技 建	西村 菊 太 郎	村上 明 美
市谷 年 弘	石 上 農 業	西村 陽 子	森田 愛 香
上根 千恵子	河 本 準 一	日本鏡餅組合	安本 祥 司
エフピコ上田株式会社鳥取支店	国際ソロプチミスト鳥取	理事長 樋口 元剛	安本 芳 子
岡川 潔	敬愛高校 S クラブ	日本基督教団鳥取教会シオン会	山口 早 苗
岡崎 充之	世 瀬 啓 人	野田 徹	山田 隆 夫
海 陽 亭	全国シャンメリー協同組合	ぱ に 一 に	ヤマモト
加藤 貴代美	大 樹 寺	ピープル株式会社	山本 静彦(大順)
金森 興太郎	田 北 千 加 子	フィリップモリスジャパン合同会社	米 村 由 美
株式会社 T R I B E	竹中工務店鳥取営業所	福 田 眞	

法人本部よりお知らせ

社会福祉法人鳥取子ども学園は、様々なツールで情報発信をしております。

- (1) 法人ホームページ <https://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>
 - (2) 鳥取みどり園ホームページ <https://midorien.kodomogakuen.net>
 - (3) 里親家庭サポートセンターいろはホームページ <https://iroha.kodomogakuen.net/>
 - (4) instagram
 - ① 鳥取みどり園 <https://www.instagram.com/tottorimidorien/>
 - ② 里親家庭サポートセンターいろは <https://www.instagram.com/irohatottori/>
 - (5) facebook
 - ① 法人facebook <https://www.facebook.com/toriko01>
 - ② 認定子ども園 鳥取みどり園 <https://www.facebook.com/tottorimidorien>
 - ③ 事業所内保育施設 とりっこらんど <https://www.facebook.com/torikkoland1941>
 - (6) note https://note.com/tottori_kodomo
- 法人、施設、事業所の様々な情報をこの4つのツールをリンクさせながらお伝えしておりますので、是非ご覧ください。



じゅんじゅんのしげやき



常務理事
山本 隆史 記

昨年度から、月初めに鳥取みどり園で3歳以上（にじ組、つき組、ほし組）のこどもたちへ「今月の聖句」についてお話をしています。たとえば、4月は「神は愛である（一ヨハネ四・八）」でした。「愛」は神が持っている特性の一つではなく、神そのものが「愛」であるということ。つまり、神はどんな人でも、失敗しても、弱くても、そして、国や性別、身分に関係なく、すべての人を愛する（大切にする）ということ（へと私は理解しています）。これらを、どのようにこどもたちにわかりやすく話をするかというところで、悩むわけです。

1つ目としては、必ずイラストを用いることにしています。神様の愛について、例えば、4月はイースターにちなみ、「イエスは十字架にかけられたが、それはどうしてなのか」ということも、こどもたちに話をしました。イエスが十字架にかかって人々の罪を背負ったのは、神の愛のあらわれであるということ伝えるために、イラストを用いて話をするといいことです。こどもたちの聴覚（私の下手な話を聴く）だけでなく視覚をとおして理解してもらうことも大切にしていきます。

2つ目は、毎回イラストは同じお話をするといいこと。ご存じのとおり社会福祉法人鳥取子ども学園の基本理念は「愛（大切にすること）」ですので、話の終わりに「イエスが貧しい人、病気の人、小さな子どもなど、弱い立場の人を大切にされたこと」と隣人愛「自分を大切にするように、他の人を大切にすること」で終わるようにしています。

こどもたちは、毎回私の拙い話を真剣に聞いてくれます。毎月毎月、今月はどういう話をしようかと悩みますし、準備のために聖書について学びの時間を持つわけですが、神から私に与えられた役割として、これからもこの時間を大切にしていきたいと考えています。

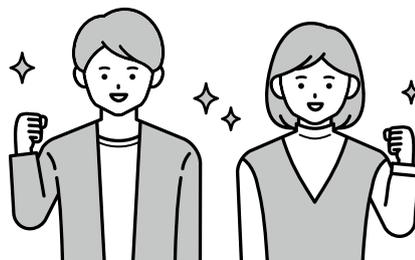
そして、見返りを求めてはいけません。園内を歩いていると、鳥取みどり園のこどもたちから「やまもとせんせ〜と声をかけられるのが、とてもうれしいのです。

かみ
神は
あい
愛である

じゅうじかに かけられ
くるしい おもいをされ

学園OB・OG会開催のお知らせ

夏のOB・OG会を2025年8月14日(木)18:00～鳥取こども学園希望館教育棟で開催いたします。近況を是非語り合いましょ。OB・OGの皆様、是非お越しください。



●銀行口座へのご寄付は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242
代表メールアドレス：toriko@tottorikodomogakuen.or.jp

振込口座：郵便振替 01490-9-9106

鳥取銀行本店営業部	普通預金	7645611
山陰合同銀行鳥取営業部	普通預金	3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野 謙一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてご入金ください。

また、銀行振込の際は領収書発行のため、お名前・ご住所をお知らせください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部	普通預金	0405970
口座名義：鳥取こども学園後援会	会長	村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えたことですので、ご理解いただきますようお願い致します。今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。